
忍たま 映画連載

絵利香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

忍たま 映画連載

【Nコード】

N6704Z

【作者名】

絵利香

【あらすじ】

あらら、ダメ事務員さんがまたやったまいたいだよ。
俺に言うなよな。…って、一年が1人いないみたいだぜ？
ダメ事務員のせいだね！知ってるよ！
あと、乙名さんが直々に何か頼みに来たみたいだよ。
園田村って所に加勢しに行くみたいだよ。

大まかな設定&プロローグ

亜風炉あふうろ 絵利香えりか

イナズマイレブンの世界から忍たまの世界に飛んできた女の子。

金髪で、少しつり目の蒼い瞳を持つ。イナズマイレブンの世界の

亜風炉照美あふうろてるみの双子の妹。

当初は仮面を被っていたが、6年及び5年の一部を兄と慕ってからは外している。

過去の影響からか警戒心などに非常に敏感で、感知できる。

ひと月前、僕は夏休みで宿題をこなしていた。4年生だから、「二
ガヨモギ城の旗を奪ってくること」という課題だ。

「うわ、煙い」

僕の神経に住み着いてる人格たちは、実体化が可能で、実体化をし
て奪い取った。

奪い取るのは得意なんだよね。

学園に帰る途中、合戦場に出くわす。戦っているのはオーマガトキ
とタソガレドキらしい。はた迷惑な…

あれ、あの人…

「お人よしな先輩だね。早く課題終わらせて戻ればいいのに」

黒「あれがあの人 of 長所でしょう？クロは知ってるよ！」

放っておいても害はない。そう考え、僕達は走る。ひと月後、あんな
な大事に巻き込まれるなんて露知らず。

1 (前書き)

城下町とか僕初めて！

登校日。先生たちにニガヨモギ城の旗を見せて合格を貰った。教室へ…行く前に仙蔵お兄ちゃんと三郎お兄ちゃんがいた。

「仙蔵お兄ちゃん、三郎お兄ちゃん」

立花「おお、絵利香か」

はちや「無事だったか。良かった…ところでお前の課題は何だ？」

「ニガヨモギの所の旗を奪って来いって」

よいしょよいしょと出す。

同じ4年生の三木工門・喜八郎・タカ丸はやってきたと言った。だけど、滝夜叉丸は1年課題が出されたらしく、破り捨てたらしい。

はちや「私はやらなかった。理由は秘密だ」

しーっというしぐさをしたあと雷蔵と一緒に何処かへ行ってしまった。

ちなみに雷蔵、僕を見た瞬間に肩車をしてくれた。

立花「おのれ雷蔵…!!」

はちや「雷蔵でもそれは許せない」

不和「立花先輩、三郎、独占欲が強くちゃ、一々絵利香の行動について肝を冷やしますよ。警戒心がなければ誰でもホイホイ着いてっ

「ちやう子なんですから」

「そう言っつて、ついでとばかりに僕にお握り一個くれた」

不和「あ、そうだ。三郎、僕たち呼ばれてるから行く」

「はちや」「何で」

不和「さあ？」

「よいしょと僕を下ろしてバイバイと手を振った。」

立花「フム……」

「暫く、僕も呼ばれ校門に来た、ら」

「伊作、雷蔵、三郎お兄ちゃん、滝、左門、しんべエ、きり丸」

「何してんの？というつと」

「善法寺「実は、一年波組の喜三太が6年生用の課題に当たつちやつたみたいで、オーマガトキの領内を偵察に行くんだ」」

「はちや「狼に変身したお前にも着いて来て貰おうと提案で」」

「不和「鼻がいいし、敵対心や警戒心に関しては鋭いし」」

平「同行してもらおうことにしたのだ」

雑用係？忍者のあなたたちの方がそういうのに関しては何と鋭いじゃない。

「まあいいか。暇だったし」

という訳で、僕も行く事に。

土井「厚着先生、日向先生、よろしくお願いします」

はちや「狼に変身だ。キツネでもいいぞ」

軽く伸びをして狼の姿を思い浮かべる。こつすると上手くいくんだよね。

ちなみに、ツンドラオオカミ。色も自由自在で、銀色。

日向「よし、行くぞ」

その言葉を皮切りに飛び出す。

「山を越えて大曲時城下町に潜入？いくら情報収集の為とはいっても…ケンヤシキたちが乗り込んで行く気満々だし…」

はちや「それではすぐにバレてしまうだろう」

山の中を走って、大曲時領を目指している時、

不和「それに危ないしね」

「訓練受けているし平気だよ。…まあ三郎お兄ちゃんがどうしてもダメって言うなら止めるけど」

はちや「ダメ」

善法寺「一瞬でも痛い思いはしてほしくないんだよ。人格達でも、戻った時に痛いのは絵利香だからね」

む…分かったと頷く。と、よしよしと頭を撫でられた。

厚着「城下町に行ったら物売りに化けて情報を集めるぞ。はちやと不和、善法寺は絵利香を使って見世物をしろ」

「色んな物に化けられる狼ですうって？」

簡単だけど、力使ったよね。…まあ、RHプログラムの効果なんだけど。

「日向「少しの間だけだ。我慢してくれ」

「分かってます」

夕方。途中で山伏に変装して分かれた伊作と、救出に向かった滝・左門・厚着先生。

僕らは日向先生に連れられ山奥のさびれたお堂へ。

そこで、利吉さんと波組の一部に会った。

はちや「大丈夫、滝夜叉丸と左門がオーマガトキ城に張り付いてるから」

不和「…三郎、皆余計に心配してるぞ」

はちや「え…」

何で皆震えてるの？座った三郎お兄ちゃんがあぐらをかき、僕はその間に座った。耳は出したまま。

立花「先生！」

「あ、仙蔵お兄ちゃん」

どうやら、忍術学園を監視していた者がいたらしい。

今度の事について学園長から話があると、仙蔵お兄ちゃんが狩り出されたのだと言う。

ヒソヒソと話した後、離れた隙を狙って…

「突撃いっ！」

立花「わ、ちょ、こら！」

どーん！と飛び付いた。

立花「全く…はちやの所で大人しくしている」

「遊んで遊んで…！」

遊んでいる暇はないぞ！と言われたけど、そんなの僕には関係ない。
とびつく僕を連れて部屋の隅に座る。

立花「一年たちと遊んでもらえ」

「ん？うん！分かった！庄左卫門たち遊ば！」

ライオンに化けて、背中に乗せて敷地内を走り回る。

庄左卫門「わ、ちょっと、先輩！」

「んにく？それ、大ジャンプ！」

皆「うわわわわわ…！」

ジャンプをして空中で大鷲に変化。飛び回る。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6704z/>

忍たま 映画連載

2011年12月24日11時46分発行